

最後の審きの宣告

出エジプト記二一章

私は深夜エジプトの中を歩む。そして、エジプトの地のすべての初子は死ぬ。その王座に着くファラオの初子から、石臼の傍らに
いる女奴隷の初子まで、また家畜の初子もすべて死ぬ。(4、5)

心をかたくなにしてイスラエルの民を去らせるのを拒み続けたファラオに対して、神は最後の決定的な審きの宣告をなさいます。エジプトの初子は王家の初子から最も貧しい奴隷の初子に至るまで、さらには家畜の初子まで全てが死ぬというものでした。この災いにより、ファラオはついにイスラエルの民を去らせる決断を下します。これまでとは反対に、ファラオの家臣たちがモーセのところに来て、エジプトから出ていってくれと頼むようになるのです。神の審きを受けることにより、彼らはずいにイスラエルの神が確かに世界を治める神であることを知るようになるのです。ファラオのように、神を侮り、神からの愛の警告を退けてはなりません。審きによって神が神であることを知るのではなく、救いへの招きを通して神を知ろうではありませんか。